

# シテシマウの基本的な意味と テクスト的な意味との関わり

宮部真由美

## 1. はじめに

この論文では、話し合い、意見、説明のテキストを用いて、動詞のシテシマウの形の基本的な意味（文法的な意味）とテクスト的な意味との関わりを論じる。

従来、動詞のシテシマウの形は「アスペクト的な意味」をもつこと、また「ムード的な意味」をもつことがいわれてきた。金田一（1955：48-49）はシテシマウを「終結態」や「既現態」とよんだ<sup>(1)</sup>。寺村（1984：152-156）は「完了」を表わす「二次的アスペクト」形式、高橋（1989）も「アスペクト的な意味」をもつものと述べている。梁井（2009）はシテシマウの通時的な考察を行ない、現代では「限界達成一般を表す形式として機能するようになった」（p.21）としている。

また、高橋（1969：132）において、「[期待外] 予期しなかったこと、よくないことが実現することをあらわす」という用法が指摘され、吉川（1973：232）では「アスペクト的なもの」も「ムード的なもの」もみられると述べられている。そして、藤井（1992）はシテシマウの基本的な意味は「ムード的な意味」のほうにあるとした。

その後の研究ではアスペクト的な面とムード的な面とを互いに認めつつ、それぞれを個別に分析するものが多く、二つの面の関わりを分析するものは多くはないが、梁井（2009）など、「ムード的な意味」の文法化について論じているものもある。本論文では先行研究の「ムード的な意味」にあたるものが、基本的な意味（アスペクト的な意味）から個々のテキストに応じて生じるテクスト的な意味であることを論じていく。そして、テキストの違いによりテクスト的な意味が異なることについても述べる。

---

(1) 継続動詞がシテシマウの形となる場合を「終結態」、瞬間動詞の場合を「既現態」とよんでいる。

## 2. テキスト分類と分析のすすめ方

### 2.1 分析対象とするテキスト

仁田 (1996) では「話し手・書き手が、ある話題をめぐって自らの考えや意見を証明したりのべたりしたもの」(p.16)を「論述」のテキストとよび、「ある作り出された世界での出来事を記述したもの」(p.16)を「語り物」のテキストとよんで区別する。また、この二つは「聞き手を直接意識せずに発せられる談話・文章」(p.15)である「説き語り」のテキストとしてまとめられ、「すぐさま話し手に転じうる眼前の聞き手を相手どってなされたり、そのような聞き手を思い浮かべてなされたりする談話・文章」(p.15)である「話し合い」のテキストと区別されるものとして位置づける(図1)。

この論文では、図1の「話し合い」のテキストと、「説き語り」のテキストのうち「論述」にあたるものを分析対象とする。「語り物」に関しては呉(2007)<sup>(2)</sup>があるが、本論文では紙幅の関係で論じることができない。今後の課題としたい。

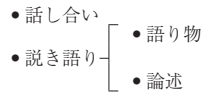


図1 仁田(1996)によるテキストの分類

### 2.2 分析のすすめ方

最初にシテシマウの基本的な意味(文法的な意味)について考える。その際には、話し合いのテキストを用いて分析する。次に、論述のテキストのシテシマウの分析を行なう。その際、論述のテキストを「意見を述べるテキスト」と「説明を述べるテキスト」とにわけて分析していくことにする。「論述」には自分の考え・意見を述べるだけでなく、現象を説明する部分もある。しかし、実際の論文からこれらを

---

(2) 呉(2007)はいくつかの文の連続(あるいはいくつかの段落)からなる単位のことを《構文論的な統一体》とよび、『してしまう』動詞の使用が、ある《構文論的な統一体》において、『しめされている一定の根拠(文脈)にささえられて、(かたり手の評価による、登場人物=動作のし手の)実現された動作の強調』にもちいられる」(p.158)と述べる。

分けることは難しいが、本分析ではそれぞれに特化したものを選んだ。分析のテキストとして、意見を述べるテキストは『JCK 作文コーパス』<sup>(3)</sup>にある大学生に晩婚化というテーマで自分の意見を2,000字程度でまとめるように求めた作文(20編)、説明を述べるテキストは中学校教科書の用例を用いる。『JCK 作文コーパス』の意見文は短いながらも書き手の意見を中心にまとめられている。また、説明のテキストとして中学校教科書を用いる理由は、教科書は説明することを中心として書かれたものであること、中学校教科書で扱われている内容は学術的に基礎的なものが扱われており、過度に専門的すぎないものであることから総合的に判断した<sup>(4)</sup>。

また、分析するシテシマウの形の動詞は完成相のものを対象とする<sup>(5)</sup>。

### 3. シテシマウの基本的な意味について

#### 3.1 限界達成性とシテシマウ

1節で述べた梁井(2009)ではシテシマウの意味が限界達成性に関係することが指摘されていた。また、金水(2000:68)は「シテシマウはスルの限界達成をさらに前景化した表現」であると述べ、「もともと動詞自身には限界を達成する意味が含まれているのだから、それに『しまう』を付加することによって、限界達成の意味が強調される」と述べている。また、鈴木(1972:384)では「動きが完全におこなわれること(完了)を強調するニュアンスがつきまわっている」と述べられており、寺村(1984:152)でも「基本的に行為・動作、できごとが完了したことを特に強調する表現である」とある。そこで、この節ではシテシマウと限界達成性との関係について考えることにする。また、「強調」という点についても言及する。なお、3節の分析ではシテシマウの基本的な意味を考えるため、話し合いのテ

---

(3) このコーパスには日本人母語話者、中国人日本語学習者、韓国人日本語学習者の作文が収められているが、このうち日本人母語話者のデータを用いる。

(4) 『JReadability 日本語文章難易度判別システム』(<https://jreadability.net/>)を利用して難易度を判定したところ日本語学習者の中級後半から上級後半レベルの結果を示した。留学生が大学に進学する際には、中級後半から上級後半レベルが求められる。

(5) シテシマウテイル(継続相)は意見を述べるテキストでは1例のみ採集、説明を述べるテキストでは採集されなかった。

クストの用例を用いる。

### 3.2 動詞分類と限界達成性

限界達成という点から動詞をみた場合、「内的限界動詞」と「非内的限界動詞」とに分類ができる。しかし、梁井（2009）でも述べられているように、シテシマウの分析では開始限界達成性も考えなければならないため、この分類では十分でない。一方で動詞分類を考える際、アスペクトの点からの分類である工藤（1995）の「A 外的運動動詞」, 「B 内的情態動詞」, 「C 静態動詞」（A, B, C という記号は筆者による）が用いられることが多い。本稿では工藤（1995）の分類を軸に、限界達成性との関係のみていくことにする。

「A 外的運動動詞」がスルの形で用いられた場合の限界達成性は表1のようになる。

表1 外的運動動詞の限界達成性（工藤（1995：88）の表を一部改変）

「A 外的運動動詞」の下位分類	限界達成性
A1：主体動作・客体変化動詞	終了限界達成性
A2：主体変化動詞	終了限界達成性
A3：主体動作動詞	開始限界達成性

つまり、「A 外的運動動詞」はその語彙的な意味のなかに時間的な限界性をもつもの（内的限界動詞）があり、その場合は「終了限界達成性」を表わす（表1のA1とA2）。一方で、動詞の語彙的な意味のなかに時間的な限界性をもたないもの（非内的限界動詞）の場合は「開始限界達成性」を表わす（表1のA3）。ただし、工藤（1995）にも述べられているように、場面・文脈との関係や副詞の存在によって決まる場合もある。例えば、「食べる」という動詞は基本的には内的限界動詞（表1のA1）であるが、(1)では開始限界のほうがとらえられている。

- (1) テーブルクロスをしたテーブルの上にケーキの箱。／リカ「——先に食べちゃうよ？」／箱からケーキを出す。（東京ラブストーリー）

つまり、動詞の語彙的な意味の点から限界達成性をとらえるだけでは十分でなく、文のなかでその動詞がどのような意味を表わすものとして用いられているかも考えなければならない。

次節では、内的限界動詞と非内的限界動詞にわけたうえで、A, B, C の動詞のシテシマウの形についてみていくことにする。

### 3.2.1 A1 主体動作・客体変化動詞, A2 主体変化動詞（：内的限界動詞）

内的限界動詞は運動の限界達成（変化の終わり）までをとらえる。そして、シテシマウの形をとることにより、終了限界の達成が明確に表わされる<sup>(6)</sup>。

(2) 永尾「あのね」／リカ「(遮って) ねえ、カンチんちにさ、紺のジャケット置いてきちゃったんだ、あれ明日持って来て？」／永尾「そんなの自分で取りに来いよ」(東京ラブストーリー)

(3) 「槍の穂に登るのは無理だ。だが、ビパークの地点を変えないと、このままでは凍え死んでしまう」(孤高の人)

もともと「A1 主体動作・客体変化動詞」と「A2 主体変化動詞」では、動詞の語彙的な意味のなかに限界性がとらえられるため、スルの形で用いられた場合も終了限界の達成を表わす。だが、宮島(1985)で分析されているように、日本語の動詞はその動詞の「結果性」までを含んだものとして必ずしも用いなければならないわけではない<sup>(7)</sup>。そのため、(2)や(3)でシテシマウの形を用いるのは、終了限界の達成を明示的、あるいは明確にさしだすためであると考えられる。

### 3.2.2 A3 主体動作動詞, B 内的情態動詞, C 静態動詞（：非内的限界動詞）

非内的限界動詞である「A3 主体動作動詞」と「B 内的情態動詞」は動詞の語彙的な意味のなかに時間的な限界性をもたない。また、「C 静態動詞」は時間のなかへの現象を問題にしない動詞である。これらの動詞においてシテシマウの形を用いるということは、まず「A3 主体動作動詞」の場合は、その動作の終了限界の達成

---

(6) 本論文は個々の動詞について分析するものではないため細かな点についてはふれないが、内山(2012)ではシテシマウがアスペクト的な意味を表わす場合の条件は、「1) 動詞が過程持続を持つかどうか、2) 動詞が内的限界性をもつかどうか、の2点であり、結果として主体動作・客体変化動詞については過程持続の有無が、主体動作動詞については動詞句レベルで内的限界性を持たせることができるかどうかの問題となる」(p.10)ということが述べられている。

(7) 「窓を開けたが、開かなかった」(作例)のように述べる事が可能である。

を明確に表わすことになる。例えば、(4)、(5)の「化粧する」、「逃げる」(スルの形)は限界性の点では開始限界達成を表わすが、シテシマウの形である(6)、(7)では未来における終了限界達成を表わす。

(4) 「10時に出かけるんでしょ。出かける前にお化粧するよ」(作例)

(5) 「……でも僕たちは、据え膳食うは、男の恥って感じですね。婚前交渉賛成なんて女の子が出て来たら、少なくとも僕はおっかないからスタコラ逃げるな」(太郎物語)

(6) お雪「わたし雷さまより光るのがいやなの。これじゃお湯にも行けやしない。あなたまだいいでしょう。わたし顔だけ洗ってお化粧してしまうから」/と、お雪は、中仕切の外の壁に取りつけた洗面器の前に立ち、両肌をぬぎ、折りかがんで顔を洗う。(溼東綺譚)

(7) リカ「あれあれ」/と、指差した先に——石焼きイモの屋台カーが走っていく。/さとり「あ——」/リカ「ホラ、早くしなきゃ逃げちゃうよ、オジサーン、ジャストモーメントプリーズ！」(東京ラブストーリー)

そして、過去形の場合((8)、(9))は先行研究で言われているような「完了」の意味がはっきりする。

(8) 「丸山さんは、座席に腰掛けていることも出来ないですね。全身が痛くて、それで、通路に寝そべってしまいました」(さくら隊散る)

(9) 公麿：健太郎を召し上げてどこか遠くへ行ってしまわれたのさ。(The 座10号)

また、「A3主体動作動詞」のシテシマウの形は、(10)、(11)のように開始限界達成を表わす場合もある。この開始限界達成性を表わすシテシマウについては3.3節でも言及する。

(10) リカ「あ——どうしてだろ」/永尾「——」/リカ「どうしてかな、悲しいのに、顔が笑っちゃうよ」(東京ラブストーリー)

(11) 健太郎：ぼくが何をしたというんだ。かえってぼくは島の人たちから「ウイスキーさん」と呼ばれて親しまれていくらいだ。ぼくの姓の「牛木」を彼等の舌は「ウイスキー」と言ってしまうんです。そこで綽名がウイスキー……。 (The 座10号)

次に「B内的情態動詞」についてである。「B内的情態動詞」のスルの形は開始

限界達成を表わし、シテシマウの形の場合も、(12)、(13)のように開始限界達成を表わす。この開始限界達成を表わす(12)、(13)は、(10)、(11)とあわせて、3.3節で言及する。

(12) 「……まあ、すこしでも、気をまぎらせてくれるものが多い方が、なんとなく、いいような気がしてしまうんだ……」

「洗いましょう……」 はげますように女が言った。(砂の女)

(13) 井上：こうやってお聞きしていると、ますます、もう一度、長島監督の姿を見たいと思っちゃうんです。これはお答えにukければ、結構ですけど。(The 座 10号)

最後に「C 静態動詞」についてである。「C 静態動詞」のスルの形は限界達成性とは無関係である。しかし、シテシマウの形となる場合、(14)、(15)にあげるように、その状態となること(なったこと)=実現を表わしている。見方によれば、その状態となる(なった)という限界達成を表わしていると考えることができる<sup>(8)</sup>。

(14) 「すぐ向うに人見張りの小屋があって、役人衆が詰めているんですから、大きな声をだすと聞えてしまいますよ」(さぶ)

(15) 「……女たちは非常に早く起きて、暁の光が現われるや否や、窓を開けねばならない。これを怠ると出征中の夫たちは眠りすぎてしまう」太郎はそこまで読むと、がばと起き上って窓を開けた。(太郎物語)

### 3.3 開始限界達成性と非意図性

3.2.2節で「A3 主体動作動詞」のシテシマウの形が開始限界達成を表わす場合があることを述べた((10)、(11))。また、「B 内的情態動詞」も開始限界達成を表わす((12)、(13))。これらの用例をみると、シテシマウの形の動詞は「非意図的な運動の実現」を表わすものとしてさしだされている。

「A1 主体動作・客体変化動詞」の場合もシテシマウの形が開始限界達成を表わす場合がある。その場合も、(16)、(17)のようにその動作は非意図的なものとしてさし

---

(8) 梁井(2009)は本動詞「しまう」の分析も行なっており、そのうえで「～シマウと比較すると、テシマウ相当形式は、より抽象的な意味機能を獲得した点で文法化が進んでいる」(p.23)と述べている。本稿も3.4節で述べるように、動詞のシテシマウの形は限界性(開始限界・終了限界)の達成を積極的に表わす形であると考ええる。

だされている。

(16) 「あたし、最近ときどき吸ってるのよ。研究室で清水先生とお話してるときなんか、先生のほうから、アナタ、タバコハ？ とすすめられるので、つい い た だ い て し ま う ん で す」(聖少女)

(17) 黒崎「いつも二度と飲むものかと思うのについい買ってしまう」(ありふれた愛に関する調査)

次の(18)はシテシマウが過去形の場合である。過去形の場合は終了限界達成を表わす場合がほとんどであるが、(18)は「つい」という副詞の存在から非意図的な運動の実現を表わすものとしてとらえることができるだろう。

(18) タエ子 (N)「この間、姉妹で集まったとき、姉さんたちについこの話をしてしまった。そうそうそんなことがあったっけと大笑いとなり、あのころの思い 出 話 に 花 が 咲 い た」(らせんの素描)

吉川 (1973) では意志動詞がシテシマウの形をとるときに無意志的な動作を表わすと指摘されていた。つまり、「A1 主体動作・客体変化動詞」と「A3 主体動作動詞」の場合は吉川 (1973) の述べるとおりである。しかし、「B 内的情態動詞」のことも考慮すると、「非意図的な運動の実現」は開始限界達成性と関連したものであるといえる。さらに非意図的な運動の実現ということ考えた場合、「A2 主体変化動詞」や「C 静態動詞」のシテシマウの形の場合も非意図的なものとしてとらえることが可能である。こうした点を考慮して、以下ではここまでみてきた「非意図的な運動の実現」を「非自己制御的な事態の実現」とよぶこととする。

### 3.4 シテシマウの基本的な意味 (文法的な意味)

3.2 節の分析ではスルの形が限界性 (開始限界・終了限界) に関して積極的にそのことを表わす形ではないのに対し、シテシマウの形は限界性 (開始限界・終了限界) の達成を積極的に表わす形であるということを確認した。

終了限界達成を表わす場合、内的限界動詞である「A1 主体動作・客体変化動詞」と「A2 主体変化動詞」のような運動が終わり・完結であることを明示的にさしだす (=スルの形に対して「強調」を表わす) ためにシテシマウの形が用いられる場合と、「A3 主体動作動詞」のような開始限界の達成ではなく、運動が終わり・完結であることを表わすために用いられる場合とがある。その意味が生じる理



由は異なるが、いずれも終了限界達成とは「明示的な運動の終わり・完結」を表わすものといえる。これは一つの動詞の運動のなかにおける局面をとりだしており、先行研究が述べる「アスペクトの意味」とはこの部分をさすものだろう。

さらに、「A3 主体動作動詞」と「B 内的情態動詞」のシテシマウの形が開始限界達成性を表わす場合には、それが非自己制御的なものとして生じる（生じた）運動であることを表わす。この点は、文脈などにより、「A1 主体動作・客体変化動詞」のシテシマウの形が開始限界達成を表わす場合も同様である。そして、「非自己制御的な事態の実現」という点は、これら以外の「A2 主体変化動詞」と「C 静態動詞」においてもとらえることができ、よって、文脈に依存する場合があるものの、A、B、Cのいずれの動詞グループにもみられる特徴であるといえる。

また3節の分析を通して、シテシマウの具体的な意味をとらえるためには、文や文脈との関係を考える必要があることもわかった。このことは4節でさらに考える。

## 4. シテシマウの基本的な意味と「ムード的な意味」

### 4.1 話し合いのテキストから

1節でも述べたが、藤井（1992：21）はシテシマウは「主体の動作や変化や状態の実現あるいは終了を、しくじり、不都合としてとらえる話し手の評価、失望、困惑、感慨としてとらえる話し手の感情」という「ムード的な意味」を表わすものであるとした。藤井（1992）が分析対象とした用例は会話文（＝話し合いのテキスト）である。また、藤井（1992）の引用箇所をみると「実現」、「終了」という記述から、本論文の3節で述べたことを藤井（1992）も認めているといえる。

また、梁井（2009）は「マイナスの感情・評価的な意味は、（途中省略）……シマウ相当形式の語彙の意味に焼き付けられて」（p.24）おり、シテシマウが「広義の〈完了〉から、マイナスの感情・評価の意味を獲得する方向で拡張してきた」（p.25）と文法化について述べている。しかし、本論文は先行研究で述べられている「ムード的な意味」とは話し合いのテキストの類にみられるテキスト的な意味（テキストにしばられた意味）ではないかと考える。なぜならば、あとの節で述べる意見を述べるテキストや説明を述べるテキストではシテシマウの形が必ずしも、

梁井 (2009) が述べる「マイナスの感情・評価の意味」という「ムード的な意味」を表わすわけではないからである。また、話し合いのテキストにおいても、(19)のように、先行研究が述べる「ムード的な意味」をとまなわれないのがみられる<sup>(9)</sup>。

(19) 加代：親しいなのねえ、お民さんて、なんだかこっちまでジーンときちやっ  
た。 (The 座 10 号)

一方で、話し合いのテキストにおいて、先行研究が述べるような「ムード的な意味」=テキスト的な意味が生じる場合、その理由にはシテシマウがスルの形が積極的には表わさない限界達成性をとらえることが関係していると考えられる。つまり、(20)、(21)のようにシテシマウの形は特に終わること（終わったこと）をとらえることにより、「残念」、「予想外」のような望ましくないことを表わす意味を生じさせているのである（寺村 (1984)、金水 (2000)、梁井 (2009)<sup>(10)</sup>など）。

(20) 「京二さん、何してるの、御飯さめてしまうわよーッ」 (文学賞殺人事件)

(21) 渡辺「ま、永尾も辛いのか、フラれちゃったわけだし」/永尾「——」 (東京ラ  
ブストーリー)

このような、文にどのようなできごとがとらえられているかという点からの意味としては、例えば、受け身構文の場合のような、はたらきかけをうける側からできごと・うごきをとらえて述べることにより、「迷惑」という意味が生じる場合と似ている。ただし、シテシマウの形は多くの場合は望ましくないことであることが多いが、先に述べた(19)や(22)のように、マイナスの意味をとまなわれないという意味でプラスの意味を表わす場合もある。

(22) 「すてきな本……、私なら表紙買いしちやいます」 (作例)

話し合いのテキストが「すぐさま話し手に転じうる眼前の聞き手を相手どってなされたり」(仁田 1996: 15) するものであることを考えると、話し合いのテキストではテキストな意味（談話論的な意味）をもちやすい。実際に、シテシマウの「ムード的な意味」は、話し合いのテキストにおけるシテシマウの形において多くの場合にみられ、また、梁井 (2009) が述べるように文法化が進んでいるように

---

(9) このような用例は限界達成性のみを表わすものと位置づけることができるだろう。また、あとで述べる (22) のようにプラスの意味を表わすものともいえる。

(10) 梁井 (2009) には「話者が動作主と一致しない場合に多用されたことも重要な役割を担っていた」(p. 25) ということも述べられている。

みえる。一方で、文法化という現象が話し合いのテキストにおける使用から進んでいくことを考えると、梁井（2009）の述べることは正しい方向にあるといえる。しかし、この節でみたように、常に「ムード的な意味」が生じるわけではないことや、あとの節で述べるように、ほかのテキストにみられるシテシマウの意味との関係などを考えると、文法化は発展途上にあるといえ、本稿は先行研究が述べる「ムード的な意味」は話し合いというテキストのテキスト的な意味の一つであるとするのが適切であると考ええる。

## 4.2 意見を述べるテキストにおけるシテシマウ

意見を述べるテキストのシテシマウは、ほとんどのものが次のような文で用いられている。

(23) 最後に、経済的な理由から結婚を後回しにしてしまうケースもあります。

(j04-2)

(24) また、結婚して子供を儲けた時に、養育費をねん出するほど余裕が無いという理由で結婚を控えてしまうこともあるだろう。(j09-2)

(25) また単純に、中学高校と異性の知り合いができる機会が極端に狭められるため、恋愛に至る機会が少なくなってしまうことも恋愛経験の低下につながっているでしょう。(j05-2)

(26) キャリアアップに邁進したいと思う女性が増えた結果、その邪魔となる出産、そして出産を求められる可能性のある結婚にも踏み切れない人も増加してしまったのであろう。(j06-2)

(23)~(26)をみると、いずれも文の構造として、原因・根拠—結果・結論という関係がみられる。点線部分に原因・根拠が述べられており、実線部分に結果・結論が述べられている。実線部分の結果・結論が述べられている述部にシテシマウの形が用いられている。そのため、(27)、(28)のように、シテシマウが条件的な関係を表わす複文の主節の述語に用いられているものもみられた。

(27) しかし、それなのに、女性が出産育児により仕事を離れると、世帯の収入はおよそ半減してしまうのです。(j04-2)

(28) 一度結婚して退社すれば、それまで築き上げてきたキャリアが断絶してしまう。(j07-2)

また、こうした原因・根拠—結果・結論という関係が1文内におさまらない場合もある。先に述べた(25)には(29)の文がつづく。(29)の下線部分の原因・根拠となっているのは、(25)に提示した1文全体である。

(29) 高校時代の恋人と結婚するとか、卒業して何年もたった後に同窓会で再婚した人と結婚するとか、そういったことがなくなってしまうのです。 (j05-2)  
同様に、次の(30)では原因・根拠が述べられているのは点線部分である。

(30) また、時代がかわったとも言えるだろう。まず、モラトリアムの伸展が考えられる。一つに進学率の上昇…多くの人びとが中学校を卒業後は高校に進学し、高校卒業後も大学に進学するようになった…その時点で大学を卒業するまではアルバイト程度の収入しか得られない…収入が少ないことは結婚するうえで大きな障壁となるだろう…そしてもう一つにバブル崩壊後の就職難。長い年月と高い学費までかけて大学まで出たのに、十分な収入を得ることが難しくなってしまったのだ。(j14-2)

さらに、(30)ではこのあとに(31)の文がつづく。(31)を単独でみれば、実線部分に対する原因・根拠が点線部分に書かれているが、この点線部分は(30)の内容をまとめたものである。

(31) こうした日本全体の進学率の上昇や景気悪化に伴う就職難によって1人前の家庭を持てる人間になるための期間が伸びてしまった、つまりモラトリアムの伸展によって晩婚化は進んでいるのだろう。(j14-2)

次の(32)も実線部分の直接の原因・根拠は点線部分である。しかし、この点線部分も「それにより」でうけられている「こういった傾向により……の

のでは無いかと思います」によって導かれる意見（結果・結論）であり、こうしたいくつかの原因・根拠についての結果・結論、そしてその結果・結論が次の原因・根拠となるように、書き手の論理を展開させていく段落構成となっている。

(32) こういった傾向により、女性は結婚するよりも、仕事や自分のやりたいことを好きに取り組めることの方に重きを置くようになったのでは無いかと思います。それにより、女性は二十代の時に結婚・出産をするような余裕がなく、仕事や趣味の方を優先してしまい、結果晩婚化が進んでいるのだと思います。(j16-2)

次の(33)の用例からも、書き手がシテシマウを用いて因果関係を述べることで論理

をつめていく構成であることがわかる。(33)では最初の点線部分の「日本のように少子高齢化といった要因によって」と一つ目の実線部分の「税制度の破綻が叫ばれるようになってしまう」は一文(一節)内に収まる関係であるが、二つ目の実線部分の「家庭を持つような余裕がなくなってしまう」は、「つまり」という接続詞があることから、それ以前の文(段落)の内容と関係していることがわかる。また、三つ目の実線部分の「結婚をしようと決意する年齢は自然と後ろへ推移してしまう」も点線部分の「その結果」という語により、それより前の文(段落)の内容と関係していることがわかる。

(33) また、これに関連して考えられるのが金銭的な理由である。日本のように少子高齢化といった要因によって税制度の破綻が叫ばれるようになってしまうと、人々は保身を図って貯蓄を蓄えようと行動する。つまり結婚して家庭を持つような余裕がなくなってしまう、もしくは経済的な安定が保証されるまでは結婚を控えようとするのだ。その結果、結婚をしようと決意する年齢は自然と後ろへ推移してしまう。(j17-2)

ただし、(33)の「日本のように……叫ばれるようになってしまう」の部分は、より大きい構文への位置づけからみると、スルト節の従属複文の従属節内において原因・根拠—結果・結論の関係が成立している。そして、「～してしまうと、……」という複文における従属節と主節との関係という点からみると、スルト節の従属複文における条件的な関係を表わしている<sup>(11)</sup>。

以上、構文的な環境も関係するものの、意見を述べるテキストにおけるシテシマウは基本的に原因・根拠—結果・結論の関係を表わす構文(段落)における書き手の結果・結論を述べる部分に用いられることがあきらかとなった。

だが、このシテシマウの形をスルの形にしても、結果・結論が表わされることに違いはない<sup>(12)</sup>。では、スルではなく、シテシマウの形を用いる理由とはなんであ

---

(11) 藤井(1992: 37)は「『してしまう』がつきそい文、とくに時間をあらわすつきそい文の述語としてあらわれる時、積極的にタクシス=アスペクトの意味の表現者となっている場合が多くみうけられる」と述べている。つまり、以下で論じるように、シテシマウが用いられる(構文的、あるいは文脈的、テキスト的)環境を考える必要がある。

(12) 20編の作文のうち、2編にはシテシマウの形が用いられていなかった。

ろうか。

用例で見てきたように、一方で意見を述べるテキストのシテシマウは、限界達成性も表わしている。そして、スルの形ではなく、シテシマウの形を用いるということは、そこに結果や結論が述べられていることを明確化＝「強調」するためであると考えることができる。また、意見文のような論理的に述べていくテキストでは客観的に述べていくということが重要で、主観的に自分の考えを主張するというものではなく、必然的な結論であるものとして書いていく必要がある。意見を述べるテキストにおいて、シテシマウの形を用いることにはシテシマウの「非意図性（非自己制御性）」という特徴も関係しているといえるだろう。

また一方で、⑳や㉑のシテシマウの形の動詞は否定的な意味を表わしており、やはり、シテシマウの形はいわゆる「ムード的な意味」を表わしているようにみえる。が、これはこの文脈において、動詞（あるいは述語部分）が表わす意味が望ましくないという内容をもつことと関係しているのではないだろうか。この点は次の4.3節の説明を述べるテキストの用例と一緒に次節で言及する。

### 4.3 説明を述べるテキスト（中学校教科書）から

表2は地理、歴史、公民、理科、数学のシテシマウの用例数である。用例数から教科書1冊に現れるシテシマウは多くないといえる。

表2 中学校教科書のシテシマウ(13)

教科書	地理	歴史	公民	理科 (1～3年)	数学 (1～3年)
用例数	7	2	18	23	1

これらのテキストのシテシマウの形は限界達成性を表わしているが、さらに公民と地理の教科書の用例には特徴がみられた。⑳、㉑は公民の教科書の用例である。シテシマウの形の動詞をみると、いずれの動詞（あるいは述語部分）もその語彙的な意味として否定的な意味をもつものである。

⑳ このように、基本的な人権は手厚く保障されていますが、日常生活では、とき

(13) 用例数は地理、歴史、公民は教科書1冊分、理科と数学は3冊分の合計である。また、歴史と数学は用例数が少ないため、以下の分析からははずすこととする。

としてその権利が侵害されてしまうことがあります。(公民)

(35) しかし、もしすべての人が自力で将来への不安に備えなければならないとしたら、高所得者はじゅうぶん備えられても、低所得者には困難なため、大きな格差が生まれてしまいます。(公民)

また、(36)のように、文脈から望ましくないもの・否定的なものとして用いられている場合もある。「お金の価値を変える」という内容は肯定的でもあり得るものであるが、(36)の文脈では否定的な内容として表わされている。

(36) 商品の値段がどんどん上がるインフレや、商品の値段が下がり続けるデフレのいずれの状況も、お金の価値を変えてしまいます。(公民)

このように、動詞の語彙的な意味だけでなく、その動詞が文・文脈のなかで表わしている意味を考えると、公民のシテシマウの形の動詞はすべて望ましくないもの・否定的なものとして用いられていた。この点は地理の教科書の用例 (37), (38) も同様であった。

(37) また、温暖化による海面の上昇で水没してしまう危険のある島もあります。(地理)

(38) これは、この地域が永久凍土という凍った土の上にあるので建物から出る熱が永久凍土をとかし、建物がかたむいてしまうことを防ぐための工夫です。(地理)

一方、理科教科書では、動詞の語彙的な意味も文・文脈の意味も否定的ではないものがほとんどであった。(39), (40)のような用例である。この場合、シテシマウは単に限界達成を表わすものとして用いられている。

(39) 太陽がのぼって気温が上がってくると、霧は消えてしまうことが多い。(理科)

(40) 図2のように、ポリエチレンぶくろの中の空気をぬいていくと、ポリエチレンぶくろはつぶれて、たがいに密着してしまう。(理科)

以上のことから説明を述べるテキストのシテシマウについて考える。公民と地理の教科書のシテシマウの形が否定的な内容を表わすという用いられかたは一見、先行研究が述べる「ムード的な意味」と関係があるように思われる。しかし、これは各教科書において、あるテーマについて説明していくなかで、シテシマウを用いて述べる部分を特に際立たせる(=強調する)ためではないだろうか。表2に示し

たとおり、シテシマウの使用は多くない。そのうえで、公民と地理の教科書では、日本社会や世界のことを考えていくうえで望ましくないこと・否定的なことにシテシマウの形を用いることで、その内容部分が効果的に強調されることになるのである。4.2節で言及した意見を述べるテキストの⑳、㉑のシテシマウもこのような使用であるといえるだろう。つまり、シテシマウ自体が望ましくないこと・否定的なことを表わすのではない。通常、文章は肯定的に述べていくものであるが、シテシマウの使用はそのなかでそれとは異なることを述べる場合に、そしてかつ、その部分を際立たせるためであるといえだろう。つまり、シテシマウが望ましくないこと・否定的なことを表わすように見えるのは文章の構成的な面と関連があるといえる。一方、理科では自然現象や実験について正確に説明する必要がある。そのため、時間関係をとらえる限界達成性のみを表わすことが多いといえる。

以上より、シテシマウのいわゆる「ムード的な意味」はテキストとの関係において生じるものであり、テキスト的な意味の一つ（特に、話し合いのテキストにおけるテキスト的な意味）であることが確認できた。そして、シテシマウのテキスト的な意味はテキストの特性や文・文脈、構文的な特徴ともからんで、基本的な意味（限界達成性）から派生する意味であることがわかった。

## 5. おわりに

この論文では以下のことについて述べた。シテシマウの形はスルの形が積極的に表わさない運動の限界達成（開始限界達成、終了限界達成）をとらえる形である。そして、第一義的には「明示的な運動の終わり・完結」を表わすといえる。限界達成性とは無関係の「C 静態動詞」などは「状態の実現」を表わす。また、シテシマウの形は「非自己制御的な事態の実現」という側面ももつ。ただし、「非自己制御的な事態の実現」を表わす場合の動詞は、もともと自己制御性とは無関係なもの（非意図的な意味を表わすもの）を除き、シテシマウの形の動詞の意味が開始限界達成性を表わすことと関係がある。そして、開始限界達成性を表わしているか否かは動詞の語彙的な意味からだけでなく、副詞の存在や文脈などからもみていく必要がある。

さらに、先行研究が述べる「ムード的な意味」に関しては、多くの場合に望まし



くないことを表わす意味を生じさせるものの、特に話し合いのテキストにおけるテキスト的な意味の一つと考えるべきものであるとした。

最後に、シテシマウは、スルの形に対して、一般化すると「強調」するものとしてとらえることができる。このことは先行研究にも「強調」という記述があった。しかし、「強調」として一般化した場合、それぞれのテキストにみられるシテシマウの特徴がみえにくくなってしまいうだろう。本稿の分析から、意見を述べるテキストにおけるシテシマウの形は、基本的に原因・根拠—結果・結論の関係を表わす構文（段落）において用いられ、書き手の結果・結論を述べる部分に用いられることがわかった。そして、説明を述べるテキストのシテシマウの形は、肯定的に述べていく文章において、それとは異なることを述べる場合に、そしてかつ、その部分を際立たせる場合に用いられることがわかったが、今後、さまざまなテキストにおけるシテシマウの形のテキスト的な意味をどのように記述していくかということは課題である。

#### 参考文献

- 内山潤 (2012) 「補助動詞「テシマウ」のアスペクト」『金城学院大学論集。人文科学編』8-2, pp.1-11, 金城学院大学.
- 金水敏 (2000) 「時の表現」, 金水敏・工藤真由美・沼田善子 (著) 『日本語の文法2 時・否定と取り立て』, pp.1-92, 岩波書店.
- 金田一春彦 (1955) 「日本語動詞のテンスとアスペクト」, 金田一春彦 (編) 『日本語動詞のアスペクト』 (1976), pp.27-61, むぎ書房に所収.
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト——現代日本語の時間の表現』 ひつじ書房.
- 呉幸栄 (2007) 「地の文の述語につかわれる「してしまう」」 『日本文学研究誌』5, pp.123-161, 大東文化大学.
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房.
- 高橋太郎 (1969) 「すがたともくろみ」, 金田一春彦 (編) 『日本語動詞のアスペクト』 (1976), pp.117-153, むぎ書房に所収.
- 高橋太郎 (1989) 「動詞 (その8)」 『教育国語』, pp.43-58, むぎ書房.
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味II』 くろしお出版.
- 仁田義雄 (1996) 「語り物の中のモダリティ」 『阪大日本語研究』, pp.15-27, 大阪大学.
- 藤井由美 (1992) 「「してしまう」の意味」 『ことばの科学5』, pp.17-40, むぎ書房.
- 宮島達夫 (1985) 「『ドアをあけたが、あかなかった』動詞の意味における〈結果性〉」

- 『計量国語学』14-8, pp. 335-353, 計量国語学会.
- 梁井久江 (2009) 「テシマウ相当形式の意味機能拡張」『日本語の研究』5-1, pp. 15-30, 日本語学会.
- 吉川武時 (1973) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」, 金田一春彦 (編) 『日本語動詞のアスペクト』(1976), pp. 155-327, むぎ書房.

用例採集資料 (この論文でとりあげたもの)

- 『孤高の人』(新田次郎), 『さぶ』(山本周五郎), 『砂の女』(安部公房), 『聖少女』(倉橋由美子), 『太郎物語』(曾野綾子) 以上, 新潮文庫
- 『ありふれた愛に関する調査』(荒井晴彦), 『文学賞殺人事件 大いなる助走』(志村正浩, 掛札昌裕), 『さくら隊散る』(新藤兼人), 『墨東綺譚』(新藤兼人), 『らせんの素描』(小島泰史) 以上, 『年鑑代表シナリオ集』(シナリオ作家協会編)
- 柴門ふみ原作/坂元裕二脚本 (1991) 『東京ラブストーリー TV版シナリオ集』小学館
- 『the 座 10号 闇に咲く花』(1987), 小学館
- 『中学生の地理』帝国書院, 『新しい社会 歴史』東京書籍, 『新しいみんなの公民』育鵬社, 『新しい科学1年~3年』東京書籍, 『数学1~3』学校図書 いずれも平成23年検定済み教科書
- 『JCK 作文コーパス』(<http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/>)